

きぶのたむ

N0.53 月刊

昭和二十七年十一月一日 発行 (非売品)
発行所 岡山県都窪郡吉備町東町一五五 宇垣方
吉備親老協会

第48号

清水山松林寺 (その四)

松林寺は臨濟宗。長円寺は曹洞宗に属する。禪宗に於いては、三教の巻頭に述べた如く、この宗派はすべて教説によらず、直覚的に悟りが得られるものとして、至禪を主として、禪とは即ち「静慮」にして、人間の性は生れながらにして善なりとの言葉の如く、自ら我行為を反省して將來を誤らぬ所に、その目的がある。と私には思ふ。始め備中吉備津宮の社人の出である榮西禪師が、一歳七歳人物鑑参照) 建久二年(一一九一)に臨濟宗を開いた。この宗義は理想的に於て、學問にとらはれ過ぎない、その為氏には信仰するものも少なく、主に貴族間の庇護を受け、榮えた。後方の安貞元年(一一二七)になつて道元禪師が宋から帰朝して曹洞宗を傳へ、廿八年後の寛元二年(一一三二)に越前國に永平寺を建立し、その本山に定められた。道元の主旨は如何なる権勢にも頭を下げることを好まず、名利にとらわれないことにある。日本佛教界の最大なる著述とされてゐる正法眼藏は、道元禪師の躬行実践的な説法を集成したもので、経論の解釈ではなく、信仰上の創見を著してゐるのである。

禪僧には自信に満ちた奇骨な人が多かつた。その一つ。甲斐の國の恵林寺の快川は、正親町天皇の天正九年(一五八一)に大進智勝國師の尊号を賜つた傑僧である。かつて川中島の戦で、馳名を馳せた甲斐國主武田信玄の帰依を受け、榮えたが、その子勝頼が三河の長篠の戦で織田信長・徳川家康の聯合軍に敗れた武田の勇將廿四人を失ひ、ついで五月山の戦で全くとんだ。この時快川禪師は部將佐々木義禎を寺中にたくまつたので、織田軍は山門に火を放つて、及處に帰せしめた。快川禪師は燃元

さかす本堂に端坐し、「心頭滅却すれば火もまた涼し」と偈し(佛家の頌詩) 一、從岩として燒死したことは有名な話である。

△ 墓地にある主なる墓標

山内氏 (段倉氏家臣)

一、月窓淨因居士 天明三年庚午七月念五日山内良左衛門吉月岳智陽大姉 寛政十一年正月念一日上原忠兵衛妻 実翁全達信立

寂室智照信女 安永四年辛酉四月同人妻

二、勇心院義藏宗忠居士 文化四年丁丑五月廿五日 現名 山内直右衛門義因

壽心院松窓妙貞大姉 文化四年外歲七月二十四日同妻 以下大塚山にあるもの

一、清光禪人藤氏墓 (禪人とは丈夫「大名の家老」の妻、或は貴人の妻である)。

彌次山内氏墓記銘
禪人姓藤氏、諱理楚、庭瀨侯臣山内直右衛門 諱義因之妻、義因有女無子、禪人年十八、請松下 對治、諱義孝為嗣、以禪人配、明年生女文没、 二年生義辰、是年有故義因出義孝、禪人少嘗 父母慈、欲嫁之人多知、其生手欲娶之禪人、辭曰妾 不幸絶於所天然、有鬼失禁他志、年六十又七、天 保四年癸巳秋九月十八日病止、葬於庭瀨之北、大塚 之山、其亡屬親戚告誡誡子及婦各以其道、具謝 為護人而後逝、禪人夙以至性稱其誡子有方、曾 一日留禪人畏、義辰諱曰、君未嘗留、今如有

驚怖色何也、禪人口吾性甚畏雷、吾聞之習 焉性成、汝切長於婦人之手恐、汝之習之而 思耳、男子在外若有畏怖之態、不然怯乎、今 汝已冠矣、吾心少安、不覺其態、恐殺也、其用心寧 此之類也、義辰稱官左衛門、被録之於石、以昭 子孫、分請余嘉、其事據快為記、乃銘曰 保身守貞 誨子有方 人盡之鑑 内閣之苑 貞名 苞撰

二、兼達院宗道良質居士 天保十一年壬子年七月七日 日 山内官左衛門義辰 行年五十四才

一如院廣室妙法大姉

三、至岳玄孝居士 天保十一年六月十二日 俗名 山内秀藏 行年十六歳

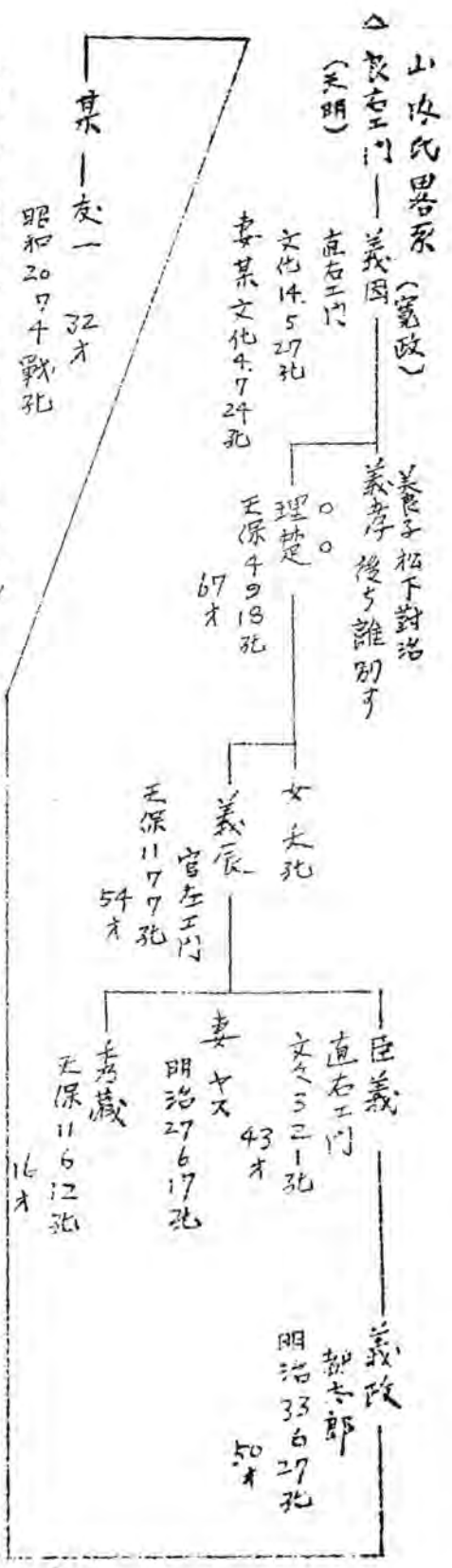
四、東性院達道全機居士 文久三年二月朔日享年 甲三歳 山内直右衛門臣義世墓

五、慈性院明道全貞文姉 俗名 山内ヤス

尾法院妙内大姉 明治廿年六月十七日亡

六、等学惠性居士 明治三十三年六月十七日没 山内義政 行年五十九

七、心光院久遠友道居士 故陸軍歩兵伍長山内友一之墓 昭和二十七年七月四日戰死行年三十二歳



庭瀬藩一代牧倉重高の室は山内氏の先祖、山内大膳高九郎藤原直女の子といふ。

明治二年牧倉家侍帳に外様給人並高十石二人扶持山内都太郎とあり。

- 名倉氏 (一枚倉氏家臣)
- 一、我月院松史玄鏡居士 享保三戌戌歲正月十三日 俗名 名倉八郎右三門舎政
 - 勇健院徳忠玄智大姉

- 二、善明院照山浄光居士 延享三丙寅歲六月六日 在名 名倉八郎右三門舎治

- 三、梅林院春光宗波居士 寛政三年亥中春初三日 現在 名倉謹士

- 四、松月院前着玄様居士 文政七己七月口日 名倉 貞末院明宗貞珠大姉 天保二年卯六月六日 (舎武の妻)

- 五、唯心寺遊樂良閑居士 明治七年甲辰年二月十四日 現名 名倉八郎右三門舎居墓

- 六、慈明院善室妙哉大姉 同六年九月廿九日 名倉氏は枚倉氏譜代の臣にして、享保十六年侍帳に祿三百石、家老名倉八郎右三門、享保十四年侍帳に祿二百石、用人並二近習頭名倉八郎右三門安止進。明治二年侍帳に御尚守居取取頭五十石二人扶持、名倉八郎右三門藤之助。隱居三人扶持名倉八郎右三門とあり。

- 七、近習とは近侍と同じく、君主の側近に仕える役にして、近習白頭はその長である。

- 八、名倉金改 八郎右三門 舎治 文政5.4.3死 寛政3.3.3死 文政7.7.0死 明治7.1.14死

- 九、子孫は福田村米倉に住居すといふ。

- 町田氏 (一枚倉氏家臣)
- 一、春光院輝岳宗果居士 享保十丁亥年三月初三日 (町田三門盛徳「徳」過去帳による)

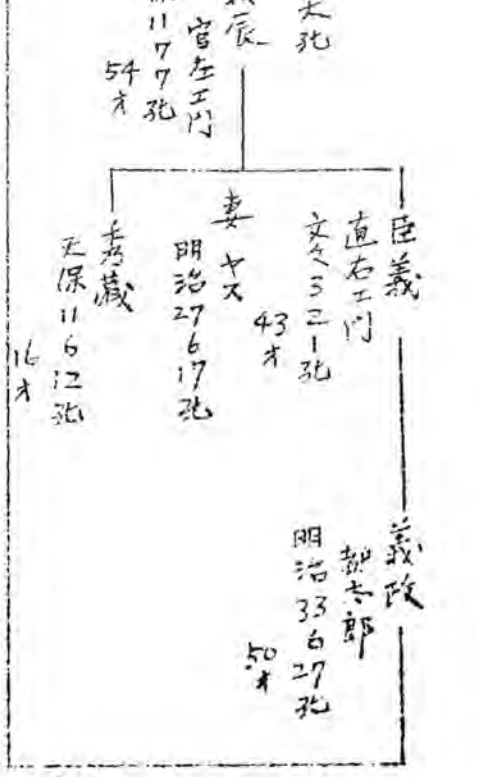
- 二、寂光院白室知清大姉 元文四己亥十月廿一日 熊沢氏 淨真院是入淨真居士 明知三酉六月初十日 現名 町田甚八郎 (三浦氏五男)

- 三、法雲院空雲親心居士 嘉永五壬午五月八日卒 町田登右三門成貞墓 (石黒氏の男)

- 四、清操院壽山智水大姉 元治二己丑年三月廿四日 俗名 町田七郎左三門成辰

- 五、特宗全勝居士 明知四丁亥十月六日 町田段哉
- 六、節心良忠信士 明知八年卯正月廿三日 町田仁右三門

- 七、慈雲院戒月智光大姉 寛政二庚戌天十月廿六日 陶山氏女 町田即左大成春墓
- 八、天祥院心海玄龍居士 文政十丁亥八月九日 町田佐治右三門成貞
- 九、慈老院淨戒妙珠大姉 天保十三年九月九日 同妻 法相院清室智淨大姉 天保十三年十月二日



庭瀬藩一代牧倉重高の室は山内氏の先祖、山内大膳高九郎藤原直女の子といふ。

明治二年牧倉家侍帳に外様給人並高十石二人扶持山内都太郎とあり。

- 有禎院瑞林智祥共姉 天明四年甲辰正月十日 逝 名倉治郎右三門舎 義忠 渡辺氏娘

- 五、唯心寺遊樂良閑居士 明治七年甲辰年二月十四日 現名 名倉八郎右三門舎居墓

- 六、慈明院善室妙哉大姉 同六年九月廿九日 名倉氏は枚倉氏譜代の臣にして、享保十六年侍帳に祿三百石、家老名倉八郎右三門、享保十四年侍帳に祿二百石、用人並二近習頭名倉八郎右三門安止進。明治二年侍帳に御尚守居取取頭五十石二人扶持、名倉八郎右三門藤之助。隱居三人扶持名倉八郎右三門とあり。

- 七、近習とは近侍と同じく、君主の側近に仕える役にして、近習白頭はその長である。

- 八、名倉金改 八郎右三門 舎治 文政5.4.3死 寛政3.3.3死 文政7.7.0死 明治7.1.14死

- 九、子孫は福田村米倉に住居すといふ。

- 町田氏 (一枚倉氏家臣)
- 一、春光院輝岳宗果居士 享保十丁亥年三月初三日 (町田三門盛徳「徳」過去帳による)

- 二、寂光院白室知清大姉 元文四己亥十月廿一日 熊沢氏 淨真院是入淨真居士 明知三酉六月初十日 現名 町田甚八郎 (三浦氏五男)

- 三、法雲院空雲親心居士 嘉永五壬午五月八日卒 町田登右三門成貞墓 (石黒氏の男)

- 四、清操院壽山智水大姉 元治二己丑年三月廿四日 俗名 町田七郎左三門成辰

- 五、特宗全勝居士 明知四丁亥十月六日 町田段哉
- 六、節心良忠信士 明知八年卯正月廿三日 町田仁右三門

- 七、慈雲院戒月智光大姉 寛政二庚戌天十月廿六日 陶山氏女 町田即左大成春墓
- 八、天祥院心海玄龍居士 文政十丁亥八月九日 町田佐治右三門成貞
- 九、慈老院淨戒妙珠大姉 天保十三年九月九日 同妻 法相院清室智淨大姉 天保十三年十月二日

- 一〇、養浩院悟道成善居士 明治九年壬子年六月四日卒 享年五十九 町田成善墓

- 一一、觀松院慈實貞光大姉 安政五年九月朔日 聖光院心月妙泉大姉 明治七年七月六日 二、究竟院湛然自光居士 明治三十三年四月廿七日 壽光院貞心妙内大姉 町田理善治之婦墓 以下大塚山にあり。

- 一二、琴徳院智文園崇大姉 明治三十四年七月廿九日 口信院妙念園貞大姉 明治三十一年十一月十五日 二、積善寺良善居士 天明四年七月念七日 町田八良墓 門成寛墓
- 一三、操屋妙貞大姉 寛政二庚戌八月十九日 (右室)
- 一四、金恵智快大姉 安永四年五月廿九日 町田善右三門 成寛妻墓 (先室)
- 一五、四、四遊院執巧美神居士 嘉永五年八月十有四日 町田美神入道墓 (先相徳治)

△ 町田氏畧系 (その一)

町田藤助 叔倉重高に仕へ小納戸方
 高五十五石 不詳

成長七郎右門 成春 郡大夫 不詳
 室曆九十五石 金銀抄方

成賢 佐治右内 正政 189石

源之助 59才
 成善 明治9年6月4日 理善治
 御尚守居取次頭 高五十五石
 明治33年7月7日 子孫は岡山市に住すと

(納戸(なんど)とは衣服調度品の取扱役にして大納戸はすべてを掌り、小納戸は日常使用の調度を掌る役人である)

(その二)

町田氏は本姓藤原氏にして、その先祖は薩摩の国主島津氏の支族である。島津氏が蘭ヶ原の役に西軍にあつて大敗し、本國へ引上げる道中、その家臣は前途の運命を悲観し途中墜落するものが続出し、浪人の後ち他藩に録せぬもの多かつた。町田氏もその一人として数年間京師に流浪し後ち叔倉氏に仕へたようである。島津家の家臣の少年に教育した一ツの歌に、こんなのがある。

高祖忠久得佛と号す、始めて三州を領して島津といふ、ニ世忠時道佛と稱す、この時上右、迄の風淳なり、三世久経道忍と稱す、攻めて礼部を亡ぼし我が民を安んぢ、結黎(きり)町田はその孫子、伊集院もまた骨肉いとレ、云々。

これは江戸時代の家久に至るまで歌いこんである。町田氏の先祖はこのやうな家筋である。寛永十四年の島原の乱には町田勘解由といふものが叔倉重昌に従つて出陣し、後ち下野國烏山城主になつた重昌の子、重矩に仕官したのである。よつて町田氏は勘解由を始祖としてゐる。その一と本家、分家であるが分派の時代は詳なでない。

町田勘解由 — 安成 元禄3年12月4日 — 成直 享保12年3月3日
 北不詳 重矩の臣、頼り某に属 御右エ門 年寄役 二百石

甚八郎 昭和26.10.10
 姫路藩士三浦某の男
 妻おろく 同藩士
 天明8年7月2日

元禄十三年叔倉重高に從ひ庭傭に移り
 妻おろく 同藩士
 天明8年7月2日

成賢 岡山藩士太田某の男
 天明4年7月6日 入道して養補といふ
 嘉徳治 嘉永5年8月4日 成貞 岡山藩士若里某の男
 八郎右エ門 慶應院續、字々某善居士 母は谷屋の娘 妻某 郡守福崎
 妻おひで 同族町田七郎左エ門の女 妻不詳 吉井某の女 元治2年3月24日

① 後妻 其早高村谷屋某の娘
 寛政2年8月19日 成美 吉性院友道成美居士
 天徳院寂羽道悟居士
 弘一 明治15年3月3日生 昭和27年10月6日
 同藩士 徳田富淳の三男 同藩士 上段万安の長女
 岡山市中山下に医師開業
 妻おきき 内鏡院心月妙老太婦 妻お薫 明治21年6月10日生
 同藩士 友太郎 松巖院友道居士
 岡山藩士 馬場某の女 妻お収 慈性院達道妙円太婦
 同藩士 友太郎 松巖院友道居士
 妻おきき 内鏡院心月妙老太婦 妻お薫 明治21年6月10日生
 同藩士 友太郎 松巖院友道居士
 岡山藩士 馬場某の女 妻お収 慈性院達道妙円太婦
 同藩士 友太郎 松巖院友道居士

勤一 昭和13年12月30日
 博二 昭和8年5月23日
 清三 大正5年5月22日生 当主
 妻 正子 郡守在村三子
 中村 豊三の三女
 昭和2年1月29日生

○ 明治二年叔倉家
 侍帳に御近羽白給人並取扱(録不明)町田次郎とあり。四屋敷跡は山陽線庭頼駅の前、西城丸衆人踏切のあたりにレ、今は全部田圃になつてゐる。

○ 高京氏 (板倉氏家臣)

- 一、修竹院聖山自質居士 生保十三年七月三日卒
高京久矢工正高
其如院實際妙相大姉慶應四年四月十五日卒
表面に墓碑あり
姓高京名正高、字子高、一名嶮、号煙崖、俗稱文
兵衛、在任藩、其自泉祖庭從公、自野州鳥山移居、此以
遷累世、而幼而孤年及十五、而加嗣嗣家、結仕為郡
佐又進郡司及此時夫、取跡(是)于家聲大振、其
為人親悟敏達、其在職則忠直、以敬上仁愛、以情下
燕居(居)、則修文講武、餘力賦詩作畫、又好茶
事及優戯、又操酒、嗚呼哀哉、此人也、天不假年、
今茲壬辰七月三日、痲終枯家、享年四十有二
矣、於板倉寺域內有胤子蘭福、請余其事
實、故誌之墓云、 藤岡 深識
- 二、青雲院英林祖雄居士 行年二十四歲、高京氏正高
卒墓 嘉永五年八月九日卒
- 三、有忠院直道宗文居士 明治五年正月十日享年
三十四 高京 繁 正文
守心院法堂淨貞大姉 同苗妻 貞墓
高京繁は同藩區岡田昌榮の次男にして五男十年
八月廿九日の生れ、高京 登の養嗣になつた人、
繁は藩命によつて江戸へ赴き、帰途横濱から金田生丸と
いふ小蒸汽船に乘り、備前の三備港、航行中、相摸灘
の船火事と起り、船と共に遭難した。この遭難は後日

○ 林氏 (板倉氏家臣)

- 一、實相院元利居士 明治六年三月十九日
親相院利貞大姉 林居舎大姉墓
明治二年侍帳に林推右五門、六右三人扶持とあり
- △ 林氏畧系
林 猪居 推右五門
明治6319北
妻 多福 天保1023生 死不詳
足守藩土岩田氏方の長女

○ 廣井氏 (板倉氏家臣)

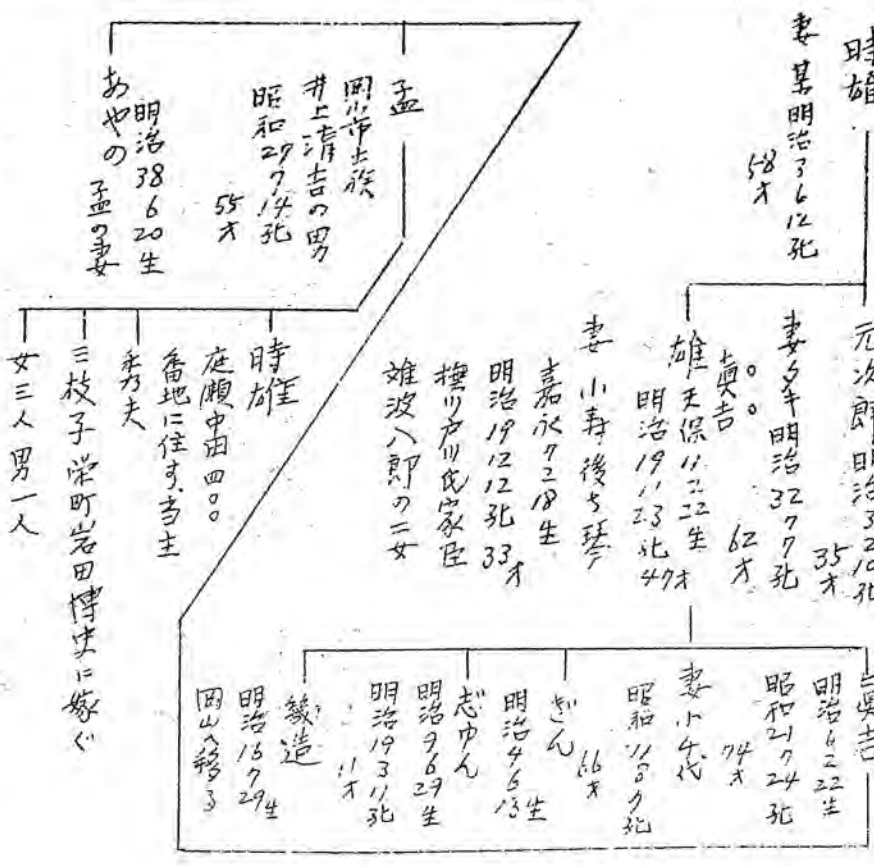
- 一、見性院實相元心居士 明治三年二月十日
享年三十五、元治即時雄 保元
死不詳
- 二、徳功院義山玄雄居士
法雲院夏屋妙宗大姉 明治三年庚午年六月十日享年
五十八歳 時雄 妻
- 三、玄標院了芳大姉 昭和十一年八月七日北、六十六才
- 四、松操院良性居士 昭和十二年七月廿日 廣井貞吉七十四才
- 五、一葉院蓮花弘栄大姉 明治三年七月七日亡
廣井元治即時妻 行年六十二 (雄、四七才)
- 六、貞照院了空居士 明治十九年十月廿三日 廣井貞吉七十五才
花鏡院知香堂女 同年三月十日 (雄の娘、志中ん)
- 七、孟徳院自性居士 昭和七年七月廿日 廣井貞吉七十五才

伊豆の下田港に金田生丸の船具や敏基の所持品が漂
着したので確認した訳である。横濱出帆の明治
五年正月十日を命日としたのである。
四、琢源院鉄雄居士 明治十年八月廿七日 琢高京鉄雄
(第七輯人物誌参照)

○ 稲垣氏 (板倉氏家臣)

- 一、實相院貞吉口(不明)正居士 文化十一年十月
念四日 稲垣和助能三
盛光院華岳妙宗大姉 天明五年四月念三日
同妻 宮田氏 娘
二、温景院良質自演居士 明和六年正月初八日
現名稲垣武右五門能持
清操院相島妙樹大姉 天明六年九月廿日 (能持の妻)
靈光院幻林白明堂子寛政四年十月念六日
表面に、中田村手打六畝十、歩半高老石鹿斗六升
五合石祠堂田(寺の邊貝金)各靈堂永代為月供
料寄附者也 安永二年三月口日(不明)
稲垣氏は元禄十六年侍帳に御用人百五十石稲垣武右五門
、享保十四年侍帳に徳文頭百三十石、同武右五門、明治二年
侍帳に御近衛台結人七十石三人扶持稲垣 某とあり
- △ 稲垣氏畧系 (当主金藏、在新居敷)
武右五門能持 和助能三 貞
明和618北 文化11104北 其小宮寛政4106北
妻 某 天明543北 妻 宮田氏 女 天明543北

△ 廣井氏畧系



当家に「湯島天神下 板倉根津守 廣井
元次郎 娘 張」と刻んだ縦四二横二五五種、
上部に孔を穿つた木製輪軸、其深銭形の金札があ
る。これは迷い子になった時に在所を知らしめるため
に幼い子の腰にぶらさげて遊ばす迷子札である。
湯島天神下は板倉氏の江戸下屋敷のあった所である。

○ 須知氏 (枝倉氏家臣)
 一、西華院梅林香信女元禄十六癸亥年十二月初八日

二、菊藏院知芳之姉 宝曆七丁丑九月十四日須知氏妻芳
 景雲院詔慶大姉

三、口軒淨寂口口居士弘化三年庚戌七月十一日卒
 須知氏内老孤

四、口連院泉室老母大姉萬延元年庚申九月廿五日 同人妻
 普明院浩道自然居士明治廿六年三月十九日卒須知氏藏

五、普門院内室妙道大姉 明治廿二年五月廿日去 同人妻
 普達院院山良勇居士明治廿四年五月五日卒須知氏三十六
 須知氏は授舎氏の外孫の家臣にして元禄侍帳に六十石給人中
 小姓須知知幸右工門にあり明治侍帳に九石三人扶持九石三人扶
 持須知氏とあり。

△ 須知氏 田原系
 老孤
 天明8.3.12 弘化3.7.11 老藏 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生

○ 中出氏 (枝倉氏家臣)
 一、皓月院寅雄禪心居士明治四年十月廿日坂中出寅雄 五十九
 二、義昌院篤信宗實居士明治十九年十月十六日卒 中出氏
 三、永信院再岳妙操大姉明治五十二年七月十一日 中出氏

△ 中出氏 畠系
 忠造 明治19.10.16 弘化3.7.11 老藏 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生

△ 中出氏 畠系
 忠造 明治19.10.16 弘化3.7.11 老藏 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 老藏 弘化3.7.11 生 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生

○ 荒木氏 (枝倉氏家臣)
 一、妙道退然居士
 安政三丁卯年八月十八日荒木伴大夫政治
 夏山妙壽大姉 嘉永四年七月十四日
 二、忠若義道居士 明治三丁卯年三月廿日荒木四治源政次
 節若義貞大姉 明治四丁卯年五月五日卒妻小糸八十二歳
 以下七塚山にあり

一、松屋宗青居士寛政十丁卯年八月十日 荒木氏
 夏雲妙意大姉 文政三丁卯年八月十日
 二、夏月良雲信士 文化元五月十八日 荒木氏 (内治)
 明治侍帳に御近習徒士小姓六石三人扶持荒木伴大夫
 とあり。

△ 荒木氏 畠系
 伴大夫 寛政11.23 弘化5.5.18 政治 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 姓不詳 姓不詳 安政3.3.12 生
 妻 某文政元5.18 妻 某 弘化5.5.18 生

伴大夫 政次 内治 怨平 文作 豪太
 明治3.3.22 妻小糸明治4.5.18 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸
 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸 妻小糸

皆様の足は

吉備夕夕

庭瀬駅前電 58 310 315 番

一式 電氣器具
 深井 電氣店
 吉備町 観音堂

同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生
 同藩土遠藤守兵衛五男 安政3.3.12 生

一、信光院宗法日興信士明治廿年九月二日北二十九年
 四代政知 長男 田口琳政隆
 安子息んとおむの端の心なき夜半の山嵐のさそ
 いこ光中く
 二、定石院院靖即居士
 傳雪院妙手乃大姉
 庭瀬藩主子爵正四位枝倉勝弘公藩士文久
 元四年出仕明治四年七月廿日王政復古廢藩置
 県君臣離散聊銘記 傳子孫云云而
 四代目 田口政知
 田口氏は明治三年侍帳に御徒士(高不附)田口叔目
 治とあり。政知との關係はわからぬ。この墓は高さ二米
 はかりの自然石を用いたもので、妻の傳雪院に北政の年
 月が刻まれている。これは、
 子孫はいま東京部在田谷区下馬所三百六に住レ
 当主を田口保といふ。(をわり)この項未完